

愛知の新しい環境共育のしくみ 「あいち共育モデル」の提案

グループ名 教育チーム

メンバー 桜井恵介、佐藤裕史、堀田博嗣、半谷まい
チューター名 雪田和人、後藤時政



現状の把握(課題認識)

教育から共育へ

- 現在行われている学校教育や、社会人向けの講座の中で、「環境教育」をテーマにした講座が開催されているが、自発的な環境保全活動に結びついていくかどうか疑わしい。
- 2020年の未来社会では、一人ひとりが環境に対する意識を持ち、自ら考え行動することが求められる。
(経済価値優先ではなく、環境を優先した価値)

「誰かが誰かを教え、育てる」のではなく、
「共に学び育ち合う」ことが重要
(愛知県に関わる企業、行政、県民が)

2020年に向けての提言の概要

あいち共育モデル



提案の内容

体験施設(案)

●商業施設

地元産酒
・地元産の食材、製品の販売とフードマイレージ(CO2量)表示
・販売品を使ったレストラン
・四組産の食品(長持ち、受着)
・食べ残しは生ゴミ処理機で堆肥化→農家へ配布

●宿泊体験

省エネルギー住宅の展示と宿泊体験
・光熱費ゼロの住宅
・……等、ハウスメーカーの住宅中心

施設のコンセプト

- ・愛知県内の施設を利用。モリコロパーク、愛知健康の森などを想定(できるだけ既存の施設を使用する)
- ・エコプロダクツ展、キッズニアなどのような楽しさを追求
- ・地元企業中心に協賛してもらい、県の費用負担は最小限に抑える
- 出展企業メリット
 - ・製品アピール、販売促進
 - ・実験的な販売等のトライ
 - ・企業イメージアップ など

●展示体験

最新環境設備・機器の展示、体験
・エコキュート、太陽光発電、風力発電…
・長持ち、修理しながら使える製品
・産品利用製品

あいち教育モデル普及のしくみ

補助金をもらい、環境技術を導入したら・・・

- ・ 導入後の状況を発表する。
- ・ その他、消費・廃棄に関するレポートを作成する。
※ 月ごとに専用webを使って報告
- ・ 我が家の環境報告書を作成する。
※ 1年に1回、専用webを使って作成
- ・ 経験をライフスタイル体験施設や企業へのフィードバックすることに協力する。

以上を3年間にわたり必ず行なってもらおう!

提案実現のための具体的な取り組み(アクションプラン)と実現可能性

実現可能性について

- ※ 施設を作る場合の予算は、愛知県の環境対策予算とする。
- ※ 施設を新設する場合は、モリコロパークやあいち健康の森を想定。
- ※ 施設に展示する製品、サービスの選定はグリーン購入法や各種エコラベル等を参考とする。
- ※ 補助金の導入にあたっては、参加者が情報発信を行うことを前提とするが、そのシステムの作成などの補助は、愛知県で行う。
- ※ 環境講座は既存の講座(NPOなど)を統合し、活用する。
- ※ 体験施設の運営は、愛知県またはNPO等への業務委託、もしくは、民間へ委託する。

波及効果

「あいち共育モデル」への参加者が、新たな情報発信源となり、その他多くの人々が連鎖的に行動していくことが期待できる。口コミ、あるいは専用webに投稿された参加者の生の声、アドバイスを見ることにより、あいち共育モデルへの参加、もしくは環境に配慮した行動をする人が増え、この流れが県民全体に広まり、環境に配慮した行動が当たり前になっていく。